

JA 全農ちば 営農情報集

2025年
6月



今月の情報

1. 水稲 当面の対策について
2. 園芸・果樹 病虫害防除
3. 果樹（ナシ）病虫害防除情報
4. 食中毒対策

今月の気象（気象庁5/31発表 1か月予報より）

平年同様に曇りや雨の日が多い予報です。

降水が多くなると、害虫だけでなく病害の発生も懸念されます。このほか、近年は高温化による急な温度上昇も見込まれますので注意しましょう。

| | | | |
|--------|----|----|----|
| 【気温】 | 20 | 30 | 50 |
| 【降水量】 | 30 | 30 | 40 |
| 【日照時間】 | 40 | 30 | 30 |

■:低い ■:平年並み ■:高い

注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

水稻 当面の対策について

1. はじめに

千葉県公表「水稻の生育状況と当面の対策」（令和7年6月4日）によると、4月20日頃移植の「ふさおとめ」の生育は、やや遅く推移し茎数もやや少ない状況です。同時期移植の「コシヒカリ」では葉齢・草丈・茎数・葉色は並みとなっています。

長期予報では今後の気温は高くなると見込まれています。適期の中干しを心掛け、適正な生育量を確保しましょう。

2. 近年の高温障害対策に！～中間追肥：けい酸加里の使用について～

(1) 効果：

- ①けい酸と加里が同時に吸収されることにより、根の活力が高まり登熟向上
- ②受光体勢が良くなり、光合成を促進させる。
- ③蒸散を促し、稲体・葉の温度を上昇を軽減（クーラー効果）
- ④稈を強くし、倒伏の軽減にも効果的

(2) 施用時期：中干し直前（田植後35～45日）

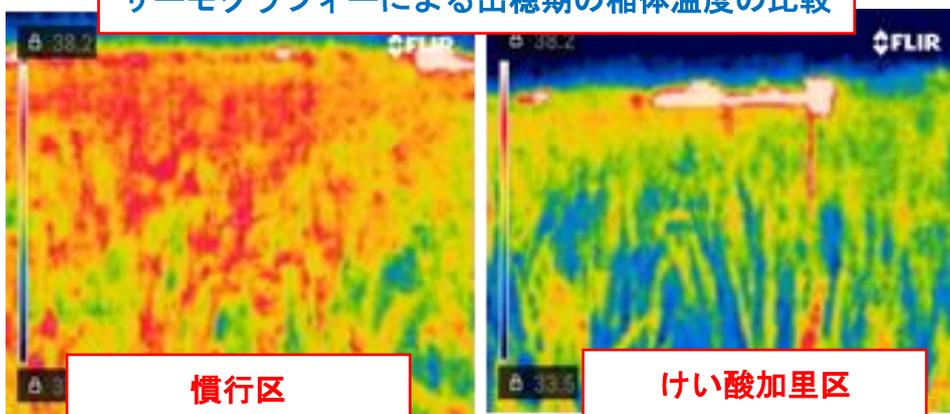
(3) 施用量：20～40kg／10a

高品質な米作りのお手伝い
 近年、極端な猛暑や日照不足などの異常気象が頻発しています。けい酸加里によって根や葉を丈夫に育て異常気象に負けない丈夫なイネ作りをしましょう。

| 保証成分(%) | | | | 含有成分(%) | |
|---------|----------|--------|---------|---------|-----|
| ＜溶性加里＞ | ＜可溶性けい酸＞ | ＜溶性苦土＞ | ＜溶性ほう素＞ | 石灰 | 鉄 |
| 20 | 34 | 4 | 0.1 | 7~12 | 2~5 |

供給 JAグループ 製造 開発肥料株式会社
<http://www.jpsik.com>

サーモグラフィーによる出穂期の稲体温度の比較



3. 分けつ数をチェックして中干しを実施しましょう

中干しが出来ず、湛水状態を続けると酸素不足によって、土壌の還元化が進んで根が老化し、幼穂形成期以降の登熟期間の養分吸収が悪くなります。

根が老化するとケイ酸、リン酸、加里などの吸収が抑制されるので、稲の体が軟弱気味になります。

「中干し」の効果は...

- ・無効分けつの抑制と下位節間の伸長を抑え、倒伏しにくい稲にします。
- ・土壌中に酸素を供給し、根を活性化させます。
- ・機械作業に適した土壌硬度を確保します。
- ・適正な茎数確保 ⇒ もみ過剰の防止 ⇒ 白未熟粒発生の軽減

茎数が確保された圃場では速やかに「中干し」を実施しましょう。特にコシヒカリは倒伏防止のために遅れずに実施しましょう。

表1 品種別の中干し開始の目安

| 品 種 | 植付時期 | 中干し開始目標茎数 | | |
|-------|-------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| | | 砂質 | 壤質 | 粘質 |
| ふさおとめ | 4月20日 | 480 本/m ² (27 本/株) | | 440 本/m ² (24 本/株) |
| ふさこがね | 4月20日 | 360 本/m ² (20 本/株) | | |
| コシヒカリ | 4月20日 | 320 本/m ² (18 本/株) | 310 本/m ² (17 本/株) | 300 本/m ² (16 本/株) |
| | 5月 1日 | | | |
| 粒すけ | 4月20日 | 472 本/m ² (26 本/株) | 440 本/m ² (24 本/株) | |

※ () 内は60株/坪植えの時の1株当たりの茎数の目安

※疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがあります。

4. 「ふさおとめ」「ふさこがね」は幼穂のチェック！

～穂肥の遅れに注意～

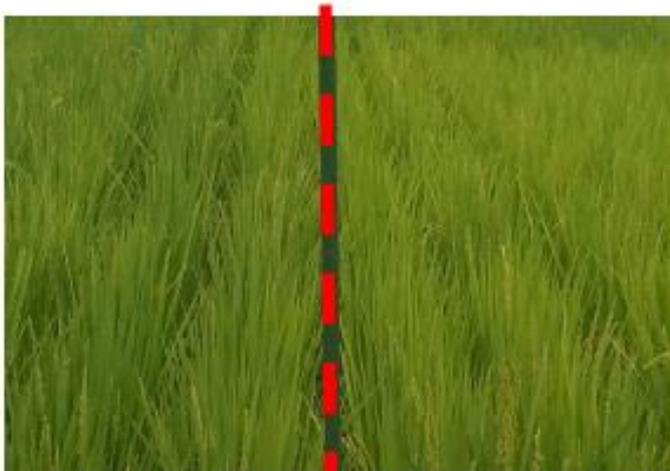
4月20日植えの「ふさおとめ」(内湾・県南)は6月12日頃から、「ふさこがね」(内湾・県南)は6月13日頃から、「コシヒカリ」(内湾・県南)は6月21日頃から幼穂形成期を迎える見込みです。穂肥の適期は幼穂形成期(出穂前25日)～出穂前18日(幼穂長1mm～10mm)です。「ふさおとめ」は穂肥が遅れると玄米中のタンパク割合が増加し、食味の低下を招くので注意が必要です。また、「ふさこがね」の穂肥適期は出穂前18日(幼穂長10mm)です。どちらも適期施用を心がけましょう。穂肥の際は、「化成肥料 17-0-17」等の速効性肥料を施用しましょう。

表2 品種別の幼穂形成期での生育目標と穂肥の施用適期(栽植密度 18.5 株/m²)

| 品 種 | 草 丈 (cm) | 茎 数 | | | 葉色 (SPAD 値) | 出穂前日数 (幼穂長) |
|-------|--------------|-----------------------|----|---------------------|----------------|--|
| | | 砂質 | 壤質 | 粘質 | | |
| ふさおとめ | 55 以下 | 570~620 (31~34本) | | 520~570 (29~31本) | 4.0 (35~38) | 出穂前 25 日 ~ 出穂前 18 日 (1 mm~10 mm) |
| ふさこがね | 60~ 65 以下 | 450~500 (25~27本/株) | | | 5.0 (38~42) | 出穂前 18 日 (10 mm) |

5. 出穂前（穂ばらみ期）追肥による白未熟粒の低減対策について

出穂期後の高温が予想され、葉色が淡い時は、出穂期前7～5日（穂ばらみ期）に 10a 当たり窒素量で 1kg を施用しましょう。（コシヒカリ・ふさこがね・粒すけで有効）



葉色が生育目標に達している水稻（左 SPAD:36.0）、
達していない水稻（右 SPAD:30.8）
（「コシヒカリ」、出穂期）

各品種の出穂期の葉色目標及び軽減対策
における対策時期と施用窒素量

| 品 種 | 葉色 (SPAD値) | 対策 時期 | 窒素 量 |
|-------|---------------|-----------|---------|
| ふさこがね | 36.5 | 出穂期 | 1kg/ |
| コシヒカリ | 34.4 | 7~5 日前 | 10a |
| 粒すけ | 34.0 | | 以内 |

千葉県「気候変動に負けない米づくり」より引用

◎高温化のドローン追肥による省力施肥について

おススメのドローン追肥に対応した銘柄（窒素成分 1 kg/10a を施肥する場合の施用量）

- ◆空散追肥 306 (3.3 kg/10a)
- ◆Jコート Quick (2.5 kg/10a)
- ◆セントラル尿素 44.5 (2.5 kg/10a)

※営農支援課にて、外部委託によるドローン散布作業も請け負っています。

ご希望の場合はJAを通しご連絡ください。

6. 倒伏軽減剤について

コシヒカリは、幼穂形成期頃の茎数が過剰であったり、草丈が75 cmを超えると倒伏が心配されます。稲の生育状態に合わせて、倒伏軽減剤の散布を検討しましょう。また、大豆等からの復元田や倒伏の常発田においては倒伏軽減剤の散布をするよう心がけましょう。

表3. 倒伏軽減剤の使用時期と目安

| 薬剤名及び使用時期 | 効果発現場所 | 7月15日頃出穂の場合 | 7月25日頃出穂の場合 | 10a 当たり使用量 |
|---------------------------|---------------|----------------|-----------------|--------------------------------|
| ロミカ粒剤 (出穂 25～10 日前) | 上位 (2～3 節) | 6月20日 ～7月5日 | 6月30日 ～7月15日 | 2～3 kg |
| スマレクト粒剤 (出穂 20～7 日前) | 上位 (2～3 節) | 6月25日 ～7月8日 | 7月5日 ～7月18日 | 2～3 kg |
| ビビフルフロアブル (出穂 10～2 日前) | 上位 (1～2 節) | 7月5日～13日 | 7月15日 ～7月23日 | 1000 倍液の 100 ㍓ 散布 (散布ムラに注意) |

7. イネクロカメムシ対策について

イネクロカメムシは斑点米カメムシ類と異なり、主に株元に寄生しイネの茎葉を吸汁します。県南から近年、県中央部でも見られ、発生が拡大しています。

加害されると葉先は黄変、捻転し、草丈は伸びず分けつが抑制されます。成虫は光沢のない黒色で体長8～10ミリ、防除は箱処理剤または本田防除（6月下旬）で対応します。



被害葉と成虫

表4. イネクロカメムシ対策の主な本田防除薬剤

| 対象害虫 | 薬剤名 | 使用量(10a) | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|-------|---------|----------|----------|-------|------|
| カメムシ類 | キラップ粒剤 | 3 kg | 収穫 14 日前 | 2 回以内 | 湛水散布 |
| | エルサン粉剤2 | 4 kg | 収穫 7 日前 | 2 回以内 | |

8. イネカメムシ対策について

近年、全国的に発生量が増加し、問題となっている大型斑点米カメムシの一種。登熟期間を通して基部を加害し、登熟初期の加害は不稔となり、登熟中～後期の加害は基部加害型斑点米を生じる。

出穂始期～出穂期に防除を前倒しする。薬剤は、スタークル等（ジノテフラン剤）やキラップ等（エチプロロール剤）がイネカメムシへの効果が高いとされている。

9月下旬刈取、不稔が多かった圃場の未収穫の穂

(令和6年10月21日採取)



出典：千葉県担い手支援課資料



基部加害型斑点米



イネカメムシによる吸汁痕
(籾基部の赤い点)

主な斑点米カメムシ類防除薬剤

| 薬 剤 名 | 10a当たりの使用量 | 使用時期 (収穫前日数) | 使用回数 | 備考 |
|--------------|------------|-----------------|------|----------------|
| スタークル粒剤 (A) | 3kg | 7日前まで | 3回以内 | 出穂期に湛水状態で散布 |
| スタークル豆つぶ (A) | 250g | | | |
| キラップ粒剤 (B) | 3kg | 14日前まで | 2回以内 | 出穂10日前に湛水状態で散布 |
| トレボン粉剤DL (C) | 3~4kg | 7日前まで | 3回以内 | |

グループ

- A：ネオニコチノイド系 (IRAC 4A) 浸透移行○
- B：フェニルピラゾール系 (IRAC 2B) 浸透移行○
- C：合成ピレスロイド系 (IRAC 3A) 浸透移行×

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば 営農支援課

園芸野菜 病害虫防除情報

1. はじめに

高温傾向のため害虫の発生が徐々に増加しています。今後、梅雨入りして降雨が多くなると、害虫だけでなく病害の発生増加も懸念されます。防除が遅れると農作物の収量低下に繋がりますので、予防的な防除を心がけましょう。また、土壌消毒を実施する場合は、適切に使用しましょう。

2. 土壌消毒時のポイント

<土壌消毒剤の選択>

薬剤により対象病害虫が異なりますので、その圃場で発生している病害虫の状況に合った薬剤を選択しましょう。

○土壌消毒剤 効果の特徴

| 薬剤名 | 薬剤分類 | センチュウ | 病害 | 雑草種子 |
|------------------------|--------------|-------|----|------|
| D-D剤(テロン・DC油剤) | D-D | ◎ | × | × |
| クロルピクリン (ドロクロール) | クロピク※ | △ | ◎ | × |
| ソイリン | D-D クロピク※ | ◎ | ◎ | × |
| ガスタード微粒剤 (バスアミド微粒剤) | MITC | ○ | ○ | ○ |
| ディ・トラペックス油剤 | D-D MITC | ◎ | ○ | ○ |

<土壌消毒剤の使用>

※クロルピクリン剤は被覆が必須です！

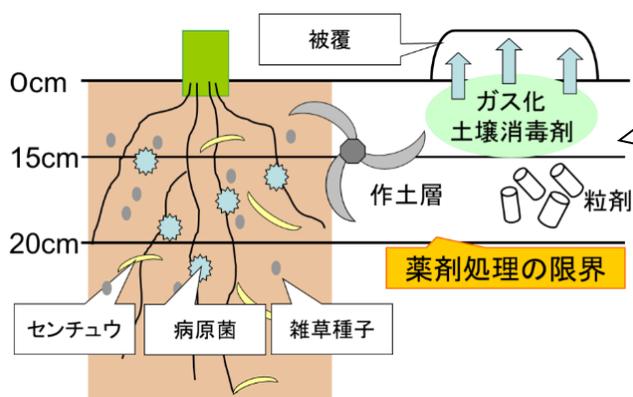
(1) 薬剤は土壌中でガス化するため、被覆を行いましょ

特に高温時はガス化が早いため、被覆を行わないとすぐにガスが抜けきってしまいます。事故防止や効果を高めるためにも、ポリエチレン等の資材（厚さ 0.03 mm 以上）による被覆を行いましょ。

(2) 適正な土壌水分の目安は、土を手で握って割れ目ができる程度が目安です。

(3) 圃場の衛生状態を維持しましょ（耕種的防除）

前作の残さはセンチュウ・土壌病害等の発生源となるので、収穫後にうない込まず、可能な限り圃場外へ持ち出しましょ。



(1) 被覆作業

被覆がないと、薬剤はガス化してどんどん抜けてしまいます。事故防止や効果を高めるために必要です。

(2) 丁寧な耕うん（ガスタード微粒剤）2回耕うんしましょ。

(3) 残さの持ち出し

発生源を減らさないと、薬剤の効果も十分に発揮できません。

3. スイカ ハダニ・アブラムシ

(1) ハダニ類



左写真：多発時の被害（スイカ）：吸汁された部分が黄化し、しだいに褐変して、ときには葉全体が枯死する。
右写真：ナミハダニの成虫（赤色）と幼虫（オレンジ色）

5月14日に千葉県から発表された病害虫発生予報ではハダニの発生がやや多となっております。スイカのハダニ被害は、葉裏に寄生して吸汁することで、葉表に白いカスリ状の斑点が現れ、次第に黄化し、ひどい場合は葉が枯れてしまいます。特に高温・乾燥条件下で発生しやすく、露地では5～10月、施設では周年発生します。被害は下位葉から始まり、徐々に上位葉へ広がるため、早期発見・防除が重要です。観察時にはルーペを使って葉裏を丁寧に確認します。防除には雑草の除去や、収穫後の残渣処理、施設内の蒸し込みが効果的です。

○スイカ ハダニ 防除薬剤

| IRAC コード | 薬剤名 | 希釈倍数 ※ | 使用時期 | 使用回数 |
|-------------|------------|-----------|-------|------|
| 6 | コロマイト乳剤 | 1000 | 収穫7日前 | 2回以内 |
| 20B | カネマイトフロアブル | 1000 | 収穫前日 | 1回以内 |
| 23 | モベントフロアブル | 2000 | 収穫前日 | 3回以内 |
| 33 | ダニオーテフロアブル | 2000 | 収穫前日 | 2回以内 |
| — | エコピタ液剤 | 100 | 収穫前日 | — |

(2) アブラムシ類



5月14日に千葉県から発表された病害虫発生予報ではアブラムシの発生が「やや多」となっております。多発すると葉に縮れが生じます。またモザイク病を媒介するので、粒剤または苗灌注による初期防除を必ず行うようにしましょう。

○スイカ アブラムシ 防除薬剤

| IRAC コード | 薬剤名 | 希釈倍数 ※ | 使用時期 | 使用回数 |
|-------------|---------------|-----------|-------|------|
| 4A | スタークル顆粒水溶剤 | 2000 | 収穫7日前 | 2回以内 |
| 4C | トランスフォームフロアブル | 2000 | 収穫前日 | 3回以内 |
| 21A | ハチハチ乳剤 | 1000 | 収穫前日 | 2回以内 |
| 29 | ウララ DF | 2000 | 収穫前日 | 2回以内 |

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば 営農支援課

果樹（ナシ）病虫害防除情報

1. はじめに

5月14日に千葉県から発表された病虫害発生予報によると、千葉県内のナシ黒星病の4月下旬発病果率は「並」となっておりますが、今後の気象状況によっては激発する恐れがあります。現状少ない発生の園でも油断せずに防除を実施しましょう。



2. 病害防除（黒星病）

【6月】 黒星病 防除薬剤（輪紋病防除を含む）

- 6月上旬 : ベルクートフロアブル 1500倍 (収穫14日前/5回)
- 6月中旬 : フロンサイドSC 2000倍 (収穫30日前/散布1回)
- 6月下旬(新梢停止直後) : **ストロビードライフロアブル【QoI剤(ストロビリン系)】**
2000倍(収穫前日まで/3回以内)
+ オオソサイド水和剤80 1000倍 (収穫3日前/9回)

【7月】 黒星病、防除薬剤（輪紋病防除を含む）

- 7月上旬 : **ミギワ20フロアブル【新規系統剤】** 4,000倍(収穫前日まで/3回)
+ ベルクートフロアブル 1,500倍(収穫14日前/5回)
- 7月中旬 : **カナメフロアブル【SDHI剤】** 4,000倍(収穫前日/3回)
+ オオソサイド水和剤80 1,000倍(収穫3日前/9回)

ベルクートやオオソサイドは予防強化に加え、耐性菌発生対策のため使用します。オオソサイド水和剤80は果実に薬剤汚れが発生する可能性があるため、対策が必要な場合は展着剤まくぴか10,000倍を加用しましょう。調合時は泡立ち防止のため最後に加えましょう。輪紋病発生園では、カナメフロアブルのところをパレード15フロアブルに変更しましょう。

☆今年度の防除について *チョウ目害虫の発生に注意!!

6月下旬からのストロビー、**ミギワ**、**カナメ**は果実の感染拡大を防ぐ目的があり、満開後75~90日の最も感受性の高い果実肥大期に合わせた重要な防除です。通常、**新梢停止直後**(いわゆる止め葉が出た後)に果実肥大が進みます。樹体の観察に努めて防除適期を逃さないようにしましょう。生育が早まっている場合は、散布時期の繰り上げではなく、日数・使用回数に注意しながら追加薬剤を選択しましょう。

また、特に今年度はシンクイムシ類などのチョウ目害虫の発生が非常に多くなる事が予想されます。チョウ目害虫対策としてジアミド系や合成ピレスロイド系薬剤が選択肢になります。特に、チョウ目害虫対策としてジアミド系や合成ピレスロイド系薬剤が選択肢になりますが、合成ピレスロイド系の薬剤やディアナWDGを散布した場合、リサーチェンスによりハダニの発生が助長される可能性も考えられますので、適宜ダニ剤の散布などを心がけてください。

●耐性菌リスクの低減について

治療効果のある薬剤は、①同系統薬剤の連用・多用、②単剤（他に予防剤などがない状態）での使用、③病害が多発の状態での使用時、耐性菌が発生するリスクが非常に高くなります。同系統剤の連用を避けて選択し、散布回数等の問題がない限りは予防剤と組み合わせて使用した方が、防除効果・耐性菌リスク対策の面で有効です。

3. ハダニ類

30℃以上の気温が高い日が続くと、1世代のサイクルが10日と短くなり増加を始めます。**梅雨～梅雨明け直前**ごろからのカネマイト・ダニゲッターによる防除が基本ですが、園内の発生状況を確認し、必要に応じて時期を早める必要があります。

○ハダニ類 防除薬剤

| 時期 | 薬剤名 | 主な効果 | 登録内容 |
|-------|-------------|------|---------------|
| 梅雨明け前 | ダニゲッターフロアブル | 殺卵 | 2000倍・収穫前日・1回 |
| 7月中頃 | ダニコングフロアブル | 殺幼成虫 | 2000倍・収穫前日・1回 |
| 8月上旬～ | マイトコーネフロアブル | 殺幼成虫 | 1000倍・収穫前日・1回 |

臨機で、6月下旬にカネマイトフロアブルや7月中下旬にコロマイト乳剤も選択可能です。
 (カネマイトは昨年までハダニ類・ニセナシサビダニ防除として暦に記載)

4. カイガラムシ類 ・ほかアブラムシ類・アザミウマ類

『**薬剤のかけムラに注意!**』

カイガラムシ類は枝の上面や枝分岐点付近、園外周の枝に溜まる傾向があります。薬剤がかかりにくいからです。十分な散布量（目安 250L/10a）を確保し、様々な向きから散布したり、大きな被害のある樹は手散布で枝の上面にもかかるよう散布しましょう。



ナシマルカイガラムシによる被害果

○カイガラムシ類 防除薬剤

| 時期 | 薬剤 | 登録内容 |
|-----------------|---------------|----------------|
| 6月上旬 | トランスフォームフロアブル | 1000倍・収穫前日・3回 |
| 6月上旬～中旬 (臨機) | コルト顆粒水和剤 | 3000倍・前日・3回 |
| 6月下旬 (臨機) | オリオン水和剤 40 | 1000倍・収穫3日前・2回 |

コルトはアザミウマ対策の軸ですが、カイガラムシ対策を強化する場合には追加で選択します。なお、コルトは浸透移行性がないためアブラムシに登録はありますが巻いている葉内のアブラムシには効果が高くありません。

安全な農作物生産の取組みについて ～食中毒対策～

J A全農ちば 営農支援課

1. はじめに

夏に向けて気温が高くなると微生物が増殖しやすくなります。特に病原性大腸菌（O-157）等による食中毒に注意が必要となります。消費者へ安全な農畜産物をお届けするために、石鹼を使用した手洗いを徹底しましょう。

2. 食中毒対策について

(1) 石鹼を使って手洗いをしましょう！

- ア. 手洗い前（農作業後）の手は汚れがかなり付着しています。
- イ. 水洗いのみの場合でも、洗い残しが確認できます。
- ウ. 石鹼を使用した手洗いの場合、洗い残しがほぼありません。

ア. 手洗い前（農作業後）

イ. 水洗い

ウ. 石鹼を使用した手洗い



(2) 家畜ふん堆肥は完熟たい肥を使用しましょう！

堆肥が未熟なままだと病原性大腸菌等が残っている可能性が高いです。堆肥は作物や作業者に触れる場合があるため、適切に完熟化した堆肥を使用しましょう。

適切な家畜ふん堆肥管理

- (1) 被覆等を行い、堆肥表面温度を **55℃程度** で数日間以上保つ
- (2) **切り返し** を行い、堆積物全体の温度が上がるようにする
- (3) 堆肥を出荷調整場へ持ち込まないように、**場所に合わせて履物を履き替える**

日頃からの小さな衛生管理が産地の食の安全・安心を守ります！！